

地域医療連携広報誌

# つながる医療

特集インタビュー

**伊藤 悠介** 医師  
いとう ゆうすけ

総合大雄会病院  
形成外科 診療部長

【主な資格】

- ・日本形成外科学会形成外科専門医
- ・日本熱傷学会熱傷専門医



地域の患者さんの“Quality of Life”的向上に貢献します

形成外科 診療部長

**伊藤 悠介**

## 普段はどんな治療に関わっていますか？

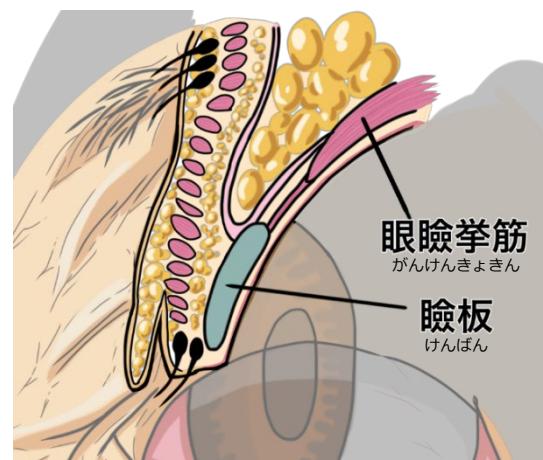
「形成外科」と聞いても、どのような診療科かイメージできない方が多いかと思います。「整形外科」との違いが分からぬ方や、美容整形と同じだと思っている方もいるかもしれません。形成外科は「身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足に対して機能的・形態的により正常に、より美しくすることで生活の質“Quality of Life”の向上に貢献する、外科系の専門領域」です。

具体的には体表のケガ・やけどや傷跡、できものやアザ、まぶたの弛みや逆まづけ、先天的なかたちの変形などの患者さんが多く、巻き爪や腋の臭いに悩む患者さんもいらっしゃいます。治療の範囲が身体全体に及び、見た目に関わることが多いのが特徴と言えます。



## 大雄会の形成外科のアピールポイントは何ですか？

眼瞼下垂（まぶたの弛み）の患者さんが多く、緩んでしまったまぶたの筋肉（上眼瞼挙筋）を瞼板に固定し直す「眼瞼挙筋前転術」を行っています。高齢の方が眼瞼下垂になりやすいですが、若い方でもコンタクトレンズの長期使用などが原因で起こることがあります。眼瞼下垂は保険診療で治療が可能ですので、気になる方はぜひご相談ください。



手術以外では、アザやシミ等に行うレーザー治療が挙げられます。当科ではQスイッチ付きルビーレーザー、色素レーザー、炭酸ガスレーザーの3つのレーザー機器を備え、愛知医科大学形成外科でトレーニングを積んだ医師が治療を担当いたします。お子様のアザは保険診療となりますし、シミやイボも原則自費にはなりますが治療が可能です。

## 患者さんへのワンポイントアドバイスを教えてください。

冬場は暖房機器や熱湯による「やけど」が起こりやすい季節です。やけどをされたときはそのままにせず、30分以上冷水で冷やすようにしてください。水ぶくれができたようなときは、自己判断でアロエを塗ったり「ラップ療法」を行ったりするのではなく、早めに医療機関に受診してください。

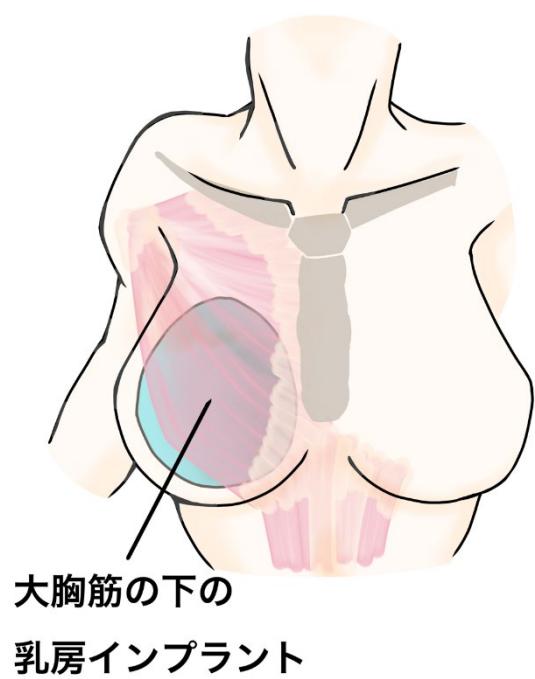
またやけどしないような予防も重要です。特に小さなお子様がいらっしゃるご家庭ではストーブ・電気ケトル・炊飯器などの電化製品や、熱いスープなどの料理はお子様の手の届かないところに置くように気をつけてください（特に近年、電気ケトルによるお子様のやけどが増加しているという報告があります）。



## 今後の目標や展望は何ですか？

乳腺外科の先生のご協力で、2023年6月から当院で行える乳がん術後の人工物（シリコンインプラント）による乳房再建の治療の幅が広がりました。乳がん切除と同時に再建を開始する一次再建と、乳がん切除から期間を空けて再建を開始する二次再建です。これまで学んできた乳房再建の技術と知識を患者さんのお役に立てたいと思っています。

乳房再建だけでなく、ここまで挙げたような治療を通じて、よりいっそう地域の患者さんの“Quality of Life”的向上に貢献していくのが、私たちの目標です。なにかお困りのことがあれば、どうぞお気軽に相談においでください。



## 先生の事をもっと知りたい！

### ●医師を志した理由を教えてください。

子供の頃は考古学者であるとか建築家であるとかその時々でなりたい職業が変わっていました。しかし大学受験をする頃には父や祖父が医師だったこともあり、医学部進学を考えるようになっていました。1年間浪人はしましたが、なんとか医学部に合格することができました。

### ●診察の際や医師として大切にしている事を教えてください。

患者さんの目線に立って、わかりやすい説明をすることです。医療者側はつい専門用語を使って話をしてしまいがちですが、それで患者さんがご自身の受けた治療について十分に理解できるとは限りません。できるだけ日常生活でも使うような平易な言葉を使って話をするようにしています。

### ●なぜ形成外科を専攻したのか教えてください。

大学入学当初は漠然と内科に進もうと考えており、私も形成外科のことはよく知りませんでした。しかし大学5年生時の形成外科の実習を通じて、見た目や機能の改善により生活や人生をより良いものにするという診療科のコンセプトに興味を持ちました。もともと指先を動かす細かい作業が好きだったこともあり、形成外科を専攻しました。

### ●休みの日の過ごし方を教えてください。

子供と過ごすことが多いですが、それ以外だと趣味の読書をしたりイラストを描いたりしています。イラストは趣味の延長で「日本メディカルイラストレーション学会」という学会にも所属していて、この冊子に載せたイラストも私が描きました。

詳しくは、地域医療連携室までお問い合わせください

